

会議結果報告書

1 会議の名称

光市まちづくり市民協議会

(第3期まちづくり市民協議会 第2回会議)

2 開催日時

平成23年3月29日(火) 19時00分～21時00分

3 開催場所

光市役所3階 大会議室1～3号室

4 出席者

まちづくり市民協議会委員 34名中 30名

5 公開・一部非公開の別

公開

6 会議の議事録(要旨)

(1) 会長あいさつ

今日は、若干冷え込む中、また、お疲れの中、皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。先ほど、会議に先立ちまして、東日本大地震で亡くなられた方々への黙祷を捧げましたが、その悲しみは筆舌に尽くしがたいことであると察する次第です。被災された方、避難生活を余儀なくされている方の1日も早い復興と、世界や日本の皆様の温かい支援の光を願うばかりです。また、ご縁のある皆様にも心からお悔やみ申し上げます。

本日は、未来のまちづくりについての会合であります。この自然環境に恵まれた光のまちをもっと良くするために、また、安心して安全の住みよさを目指して、がんばらないといけないと考えております。

また、委員の皆様には昨年からまちづくり・未来ワークショップに参加いただき、厚く御礼を申し上げます。ワークショップの手法により、参加された方々のまちづくりに対する熱い思いを、ご意見としてうかがうことができたのではないかと思います。また、光市の未来の姿について考えるためにも、良い機会であったのではないかと考えている次第です。

一方、市では先ほど資料で説明がありましており、ワークショップの運営やとりまとめ、アンケート調査の実施・考え方の集計・分析などを行っております。新年度に向けて

のまちづくり作業も今から本番に向かいますが、このアンケート調査結果は、計画策定の基礎資料として大いに役立たせていけるのではないかと考えております。

本日は、今年度の締めくくりとしまして、1年間の取組みの成果とともに振り返りながら、前期基本計画の進捗状況など、まちづくりの成果の説明が予定されております。資料は膨大ですが、有意義かつ円滑な会議の進行をお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

(2) 協議事項

①各種アンケートの結果について

事務局（企画係長）より説明（省略）

（委員）

アンケートの内容がきめ細かく仕分けしてあり、見やすかった。また、問題点が分かりやすかった。大和地域では、中学生アンケート結果が他の地域と比較して傾向が異なる。地域格差をなくす方向性で十分に検討してほしい。

（委員）

アンケートの回収率が50%を切っている。もっと回収率を上げることはできないだろうか。回収率は、60%は欲しいと思う。回答者が少ないと意見がかたよるのではないか。

（事務局）

回収率はどうしても伸び悩む。無作為に抽出する方法で行っており、できるだけ多くの市民に周知するように、広報などでもお知らせしている。目標指標においても、「アンケートの回収率」の目標数値を設けて、少しでもそれに近づけるように取り組んでいるところである。

（委員）

年齢別や地域別の構成について、1点は、市内の構成比と比べたときにこれが適正かどうか気になる。もう1点は、年齢の分布を見たときに、70代以上、60代以上が半分を超えているということが気になる。若い人の意見がここに反映されていないのではないかと感じる。若い人にどうすれば回答してもらえるかという工夫を考えられていることはないか。

（事務局）

配布する時点では、地域別、年齢別の構成についても考慮している。サンプルについては2,000部、3,000部を配布しており、回収数についても1,000程度はあるので、完全とは言えないが、ある程度はこれで傾向の把握はできるのではないかと考えている。回収の方法については、インターネットの活用なども考えられるが、逆に良い方法があれば教えていただきたい。

(委員)

社会情勢の設問について、集計結果で%（構成比）は出ているが、実際何人の人が答えているという数字が出ていないのはなぜなのか。また、この設問項目を設けた意図、つまりこの結果をどのように活かしていくのか。

(事務局)

数字を掲載していないことについては、編集上の都合ということでご理解いただきたい。

意図については、その前の設問で光市の「強み」「弱み」という項目を設けており、SWOT分析という分析方法で、「強み」「弱み」「機会（チャンス）」「脅威（リスク）」を整理するためである。「強み」と「機会（チャンス）」の相乗効果で何ができるか、「脅威（リスク）」がある中で「強み」を活かしてどんなことができるかなどを考えるヒントにしたいということで、このような設問を設けている。

②「まちづくり・未来ワークショップ」の成果について

事務局（企画担当）より説明（省略）

(委員)

先ほどアンケート調査とワークショップの成果の説明があったが、アンケートは全体の傾向を把握することが主な目的、ワークショップではまちづくりに対してたくさんの方の意見を把握することが主な目的であると思う。アンケート調査結果とワークショップの成果が今後どのような筋道で市政に活かされるか、これが1番問題だと思う。アンケートの回収率の話もあったが、市政に反映されていないと次から本気で回答しなくなる。

(事務局)

今回の市民意向調査については、「まちの強み」「まちの弱み」を調査している。先ほど申し上げたが、外部要因として「機会（チャンス）」と「脅威（リスク）」がある。今、民間企業のマーケティング手法としてSWOT分析が行われており、行政においてもそれを活用しようと考えている。通常の意向調査に加えて、「まちの強み」「まちの弱み」「機会（チャンス）」「脅威（リスク）」という新たな項目を追加したところである。それと平行してワークショップでいろいろな意見をいただいた。さらに、庁内の職員でもSWOT分析を行っており、これは主に重点プロジェクトを検討していく際の参考資料にしたいと考えている。

(委員)

ワークショップの結果を見ると、4、5年前の対話集会で出された課題と今回のワークショップで出された課題が重複している。まちづくり対話集会で出された課題に対する市の考え方が以前、市広報に掲載されたが、それがその後、どのように進んだのかが分からない。時間があつたら、1度まとめてもらいたい。

(事務局)

おそらく基本構想策定時の対話集会で出た意見だと思う。その意見に基づき、それらを

集約して総合計画を策定している。総合計画の中では、いろいろな数値目標を設定しており、計画を数値目標で管理している。後で説明するが、項目ごとに目標数値等を設定して現在の進捗状況を示している。

(委員)

それでは、各部署で出されている意見についてはそれで終わりという考えでよろしいか。

(事務局)

対話集会においてはそのような意見もいただいた。その後いろいろな機会でも市民の皆様から意見をいただいている。今回もワークショップや、今までとは形式が異なるが昨年からは対話集会をやっている。過去の意見も踏まえて総合的な観点から政策などの検討を進めている。

(委員)

このワークショップは、市民だけが参加している。岩田駅周辺の整備方針を検討するワークショップには職員も入っている。手法が違うのはなぜか。「共創と協働」の中では職員も入ってよいのではないか。

(事務局)

現在、総合計画策定と室積コミュニティセンター、岩田駅周辺整備についてワークショップを行っている。それぞれのワークショップで参加者の皆さんの意見を把握することが重要であると考えており、手法については試行錯誤の段階でいろいろな手法を行っている。

③前期基本計画の進捗状況について

事務局（企画係長）より説明（省略）

(委員)

改善が進んでいるが、低下しているものもある。低下しているものも含めて概ね順調に推移していると言われたのか。また、低下しているものについて、その原因を分析して改善に向けた取り組みを行っていく予定はあるのか。

(事務局)

1つ1つの指標を見れば、上がったものもあれば下がったものもある。未来指標については、ある程度中長期的な視野で見なければいけないという観点から申し上げたことが、概ね順調に推移しているということである。当然、1つ1つ見れば順調でないものもあると理解している。

(委員)

具体的に言うと「市民活動に対する満足度」や「市民の健康づくりの取組」など、平成19年を境に低下している。なぜこのようになったのかということを検討しているのか。

(事務局)

策定時から毎年見ると、年によってどうしてもばらつきがある。あくまでも市民の皆様

の満足度を把握するために、アンケートにより数値化して指標としている。これが絶対的なものではないと考えている。傾向としてこの指標を活用しているが、先ほどの意見に対しては、ワークショップやアンケートの個別意見で参考にしている。

(委員)

説明があった進捗状況については前期基本計画のことであり、前市長の計画である。今行っているワークショップは後期基本計画のことであり、新しい市長での計画である。基本構想については、前市長の構想で進めるのか。その辺をはっきりと説明してほしい。

(事務局)

基本構想は10年間の構想であり、前期基本計画は5年、後期基本計画は5年である。市川市長は、基本構想は前市長を継承すると表明している。

(委員)

光市は景観が優れている。景観法に基づく景観計画について、行動計画では平成23年度と平成24年度に策定することになっているが、前期基本計画では平成19年度に策定することになっていた。なぜ策定が遅れているか教えてほしい。

(事務局)

前期基本計画に基づいて平成19年度・平成20年度に策定を予定していたが、市民にまだ周知されていないという意見があり、上位計画である都市計画マスタープランや緑の基本計画の中で、景観についても周知しながら進めていく予定である。

(委員)

光市にとっては都市計画マスタープランよりも景観計画の方が大事である。市民に周知するためにどのようなPRをしているのか。

(事務局)

景観計画も大事であるが、都市計画マスタープランや緑の基本計画の方が上位計画であると考えている。PRについては景観パンフレットを配布し、また市のホームページに載せるなど周知に努めている。

(委員)

景観の方が重要であると思う。

(3) その他

①地域別まちづくり・きらめきワークショップについて

事務局（企画係長）より説明（省略）

(委員)

地域別ワークショップの手法は、まちづくり・未来ワークショップの手法と一緒か。

(事務局)

手法はあまり変わらない。

(委員)

ワークショップの手法について、まちづくり・未来ワークショップで地下（ぢげ）ワークショップを提案した。地域のことをよく知っているのは地下（ぢげ）の者だが、他地域の人も新鮮な目で地域の問題を知ること、新たな考えやアイデアが出てくるのではないかと思う。それを踏まえて、地域別ワークショップを行う場合、地元の人だけでなく、他地域の人も参加できるワークショップにできないか。

(事務局)

今回は地域のことを知ることを目的として、地域の人だけの参加を考えている。

(委員)

意見として、今回のワークショップでは漠然とした問題を短時間で話し合うということで具体的な行動に落とし込むことができなかつたと思う。今後は行政の人とも協働で、外の人とも協働できるようにしてほしい。また、具体的に行動につながる手法を取り入れてほしい。

(委員)

地域別ワークショップでは職員が入らないということだが、年齢構成に問題がある。ワークショップに参加される方は高齢の人が多。若い人も入れて意見を聞かないといけない。先ほどのアンケートと一緒に構成をよく考えてほしい。

②その他

事務局（企画係長）より説明（省略）

(委員)

協議会の進め方として、今日は説明のようだったと思う。行政改革の会議では質問状を送っていただいていた。事前に質問状を提出することでもっと協議ができるのではないかと思う。